

おいでメッセ柳川がグランドオープン

柳川のうまかもんやよかもん約 140 商品が勢ぞろい



柳川ブランドショップ「おいでメッセ柳川」が12月3日、柳川商店街にオープンしました。店内には、柳川ブランド認定品やうまかもんづくりぐっちょで開発した商品、地元物産など約140商品が所狭しと陳列。午前10時30分の開店にあわせて来店した買い物客は、商品を手にとって買い物かごに入れていました。買い物客は「柳川のおみやげが欲しいときは、とても便利です。こんなに商品があるなんてびっくりしました」と話しました。

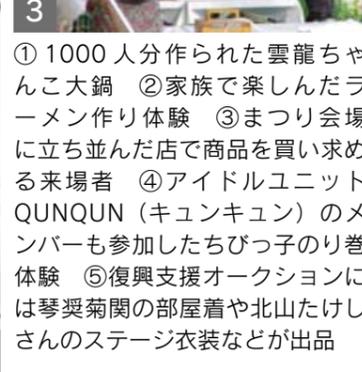
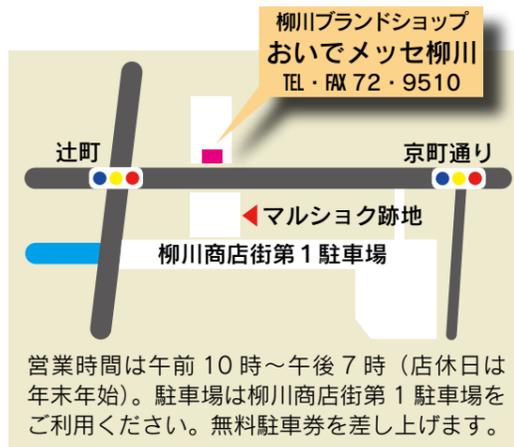
またマルショク跡地では、柳河小学校の児童による「子どもどろつくどん」の披露と、おいでメッセ柳川で販売している商品の試食会も開催され、子どもから大人までたくさんの人が詰めかけました。来場者らは「試食したもののほとんどが、初めて食べたものばかり。どれもおいしかったです」と舌鼓を打ち、地元の商品を知ってもらいたい機会となりました。

おいでメッセ柳川では、商品の全国配送サービスやお歳暮などのセット商品も用意しています。ぜひ、ご利用ください。

問い合わせは、おいでメッセ柳川 ☎・FAX 72・9510) まで。



【写真左】金子市長ら5人がオープニングセレモニーでテープカット【写真右】おいでメッセ柳川が開店すると、多くの人が来店し、商品を手にとって品定めをしていた



① 1000人分作られた雲龍ちゃんこ大鍋 ②家族で楽しんだラーメン作り体験 ③まつり会場に立ち並んだ店で商品を買求める来場者 ④アイドルユニットQUNQUN(キュンキュン)のメンバーも参加したちびっ子のり巻体験 ⑤復興支援オークションには琴奨菊関の部屋着や北山たけしさんのステージ衣装などが出品

買って、食べて、楽しんだ2日間に大満足

第7回柳川市民まつりに6万5000人が来場

11月26日と27日の2日間にわたって、第7回柳川市民まつりを有明地域観光物産公園で開催しました。

2日間とも天気に恵まれ、6万5000人が来場。柳川産の農水産物や柳川ブランド認定品などの展示や販売する店が立ち並び、午前中で売り切れる店もありました。ステージでは、クイズ大会やテレビキャラクターショーなどのほか、アイドルグループやお笑い芸人によるショ

もあり、大いににぎわいました。

また、今回は東日本復興支援のためのオークションも実施。大関琴奨菊関や演歌歌手の北山たけしさん、レーシングドライバーの井口卓人さんの3人の観光大使と、大川市在住の画家、野口忠行さんの4人が出品しました。13万4500円の落札金は、日本赤十字社を通じて全額寄付されます。

思いやりのあるやさしいまちへ

三橋公民館で「人権を考えるつどい」を開催



▲講師の大野勝彦さんが、講演の最後に「夢に向かって笑顔いちばん」と書をしたためた

毎年12月4日から10日までは人権週間です。今年の4日は、三橋公民館で「人権を考えるつどい」が、市と市教育委員会、市障害者協議会の主催で開催されました。つどいでは、まず社会福祉法人学正会の白梅学園吹奏楽部が演奏や歌を披露。その後、講演したやまびこ塾塾長の太田勝彦さんが、22年前、農作業中に両手を切断して感じた家族の存在や社会とのつながりについてユーモアを交えながら話し、会場の聴衆450人を沸かせました。また、似顔絵や詩を書くようになったのは、家族や周囲の人たちから受けた優しさに感謝の気持ちを伝えるためだといい、「あきらめたらだめだと思って、いろいろなことに挑戦してきたんですよ」と、何事にもあきらめないことの大切さを訴えました。

また当日は、障害者週間(毎年12月3日～9日)と北朝鮮人権侵害問題啓発週間(毎年12月10日～16日)の啓発もあわせて実施。同公民館ロビーに、同協議会が作成した防災ハンドブックの紹介や、拉致被害者の写真や資料などをパネル展示しました。



⑥2日間とも行われた投げもちに子どもからお年寄りまで多くの人が押し寄せた ⑦県産牛乳無料配布に長蛇の列 ⑧見事な包丁さばきを披露した天然本マグロの解体実演 ⑨柳川よかとこバスツアーで蒲池焼の鳩笛の絵付けに挑戦する参加者 ⑩おだん節と炭坑節でまつりを締めくくった市民総踊り

